

キハダ 大西洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7～10 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身、すし、缶詰など

漁業の特徴

大西洋におけるキハダ漁業は 1950 年頃に始まり、1955 年頃から、竿釣り及びはえ縄漁業が開始された。当初は、はえ縄の漁獲が多くを占めたが、最近年は、まき網が主となっている。主漁場は熱帯域であり、とくに東部大西洋からの漁獲が多い。近年は、まき網の FAD 操業の漁場が拡大し、南は西アフリカ沿岸の南緯 15 度付近、北はモーリタニア沖合の北緯 15 度付近まで広がっている。はえ縄は大西洋のほぼ全域で操業が行われている。竿釣り漁業は東部、西部大西洋の沿岸部で行われている。

漁獲の動向

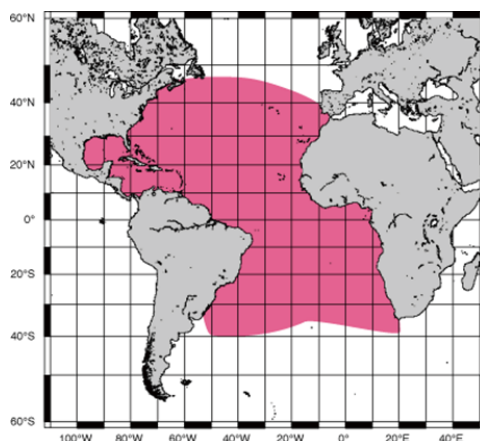
漁獲量は、当初から 1970 年代までは概ね増加傾向にあり、1980 年以降は 10 万～19 万トンの間で変動し、最近年は、全漁獲量のうちおよそ 70% がまき網、16% がはえ縄、8% が竿釣りにより漁獲されている。2016 年の総漁獲量は 12.7 万トン（予備集計）であった。

資源状態

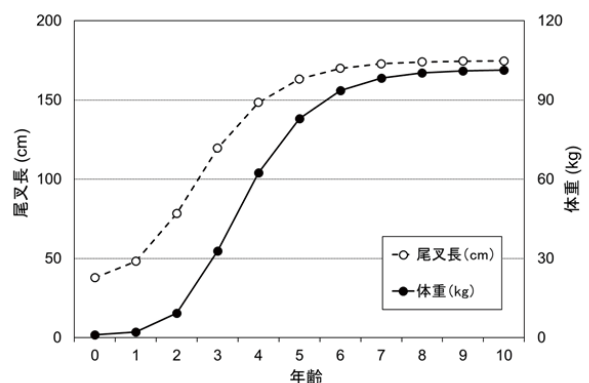
最新の資源評価は ICCAT により 2016 年に行われた。資源評価モデルは、非平衡プロダクションモデル (ASPIC)、年齢構造を持つプロダクションモデル (SCAA、ASPM の一種)、VPA 2-Box 及び Stock Synthesis (SS) が用いられた。MSY は 12.6 (11.9～15.1) 万トンと推定され、2015 年の漁獲量より大きい。2014 年の資源量は MSY レベルよりやや小さく ($B_{2014}/B_{MSY}=0.95$ (0.71～1.36))、2014 年の漁獲率は MSY レベルより小さい ($F_{2014}/F_{MSY}=0.77$ (0.53～1.05)) と推定された。したがって、2014 年において、本資源は乱獲状態だが、適正なレベルに近く、本資源への漁獲率は過剰でなかったといえる。将来予測を行うと、漁獲量 11 万トンとした場合、2024 年に資源と漁獲率が健全な状態 ($B_{2024}/B_{MSY}>1$ 、 $F_{2024}/F_{MSY}<1$) である確率は 97% と推定された。

管理方策

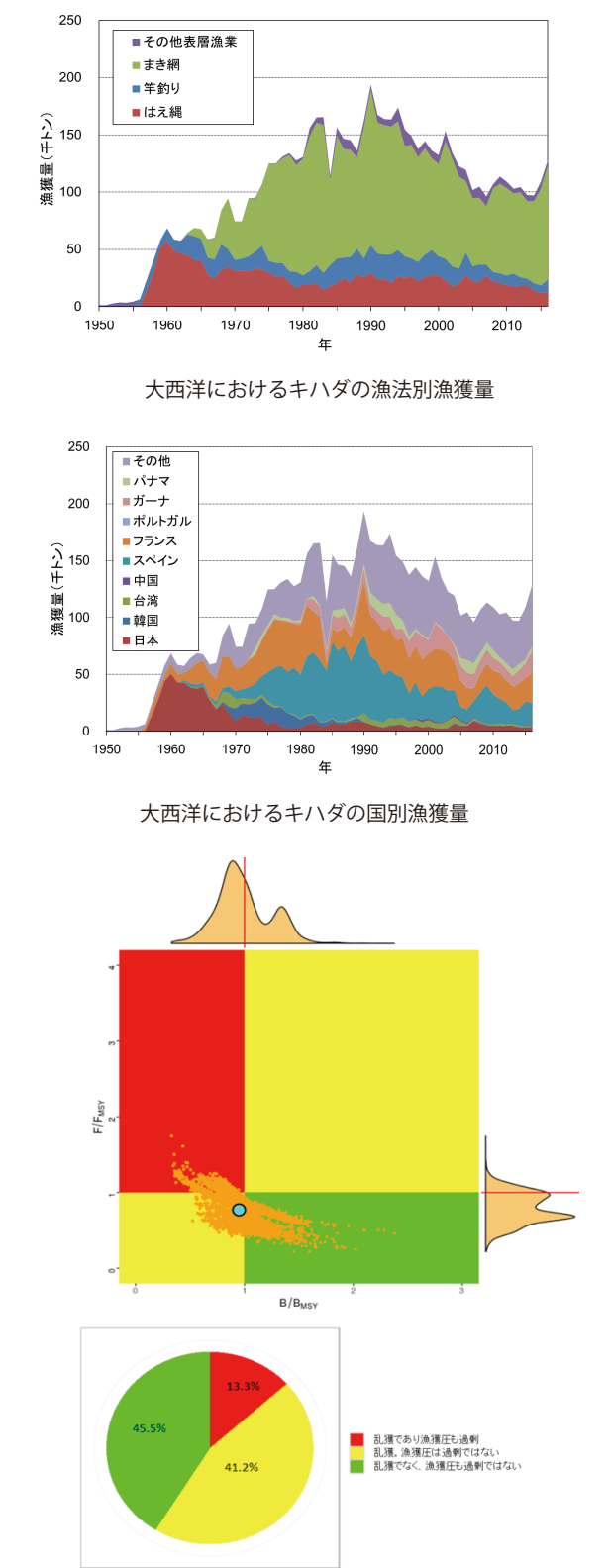
ICCAT の Recommendation 16-01 に基づき、資源管理措置が講じられている。将来にわたる持続的利用を確実にするため、TAC (11 万トン) が設定されている。また、FADs を利用するまき網の禁漁期 (1 月 1 日～2 月 28 日)、禁漁区域 (南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度とアフリカ西岸で囲まれた海域) 及び各まき網船の 1 年間の FADs 設置数の上限 (500 基) が導入されている。



大西洋におけるキハダの分布域



大西洋におけるキハダの成長



キハダ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	9.7万～12.8万トン 最近(2016)年：12.8万トン 平均:10.7万トン(2012～2016年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0.3万～0.4万トン 最近(2016)年：0.3万トン 平均:0.4万トン(2012～2016年)
管理目標	MSY：12.6(11.9～15.1)万トン
資源評価の方法	プロダクションモデル(ASPIC、SCAA) VPA(VPA-2BOX) 統合モデル(Stock Synthesis)
資源の状態	$B_{2014}/B_{MSY} : 0.95 (0.71 \sim 1.36)$ $F_{2014}/F_{MSY} : 0.77 (0.53 \sim 1.05)$
管理措置	TAC(11万トン) FADsを利用したまき網操業の禁止(1月1日～2月28日:南緯4度、北緯5度、西経20度とアフリカ西岸で囲まれた海域)及び各まき網船のFADs使用数の上限(500基)
最新の資源評価年	2016年
次回の資源評価年	2021年